

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

当院における鏡視下腱板修復術後の再断裂に関与する因子の検討 -後ろ向き研究-

2. 研究責任者(当院)

所属： リハビリテーション室

氏名：小川侑男

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属：整形外科

氏名：伊勢昇平

所属：リハビリテーション室

氏名：奥村太朗、廣田知佐恵、桑原康太、白井智裕

4. 研究対象者

2020 年 6 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の間に聖隷佐倉市民病院において

腱板断裂に対して鏡視下腱板修復術を受けた方

5. 研究の必要性

腱板断裂に対し、鏡視下腱板修復術を施行することにより、良好な術後成績が多数報告されている。しかし、術後合併症として修復腱板の再断裂が一定の割合で生じることが報告されている。修復腱板の再断裂は疼痛遷延化や肩関節制限が残存し、術後リハビリテーションに難渋することを経験する。再断裂の因子は、様々な報告がされているが後療法や術後肩関節可動域の目標可動域設定は各施設により異なるため再断裂因子は異なる可能性が考えられる。

以上のことから、当院における鏡視下腱板修復術後の再断裂に関与する因子の検討をすることで、良好な術後成績の獲得に必要な術前・術後因子を特定することが可能となり、良質な術後リハビリテーションの提供に繋げることが出来ると考えられる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

後ろ向き観察研究であり、日常診療にて収集した情報のみを使用するため、本研究によって生じる個人への影響はないと考えられる。

今回の検討による医学上の貢献の予測としては、鏡視下腱板修復術後の再断裂因子を明確にすることで、術後の良好な肩関節可動域の獲得や再断裂予防を目的とした患者教育の ADL 指導に繋げることができ、術後成績が向上する可能性がある。また、リハビリスタッフにおいても具体的な数値で示すことでリハビリテーションのリスク管理や質向上の一助となると考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：小川侑男

対応時間：8:30－17:00